

[様式 18]

1. 開催年月日                    令和4年6月23日
2. 開催場所                    三原駅前キオラスクエア内    サテラス
3. 委員出席  
    委員総数                    6名  
    出席委員数                4名  
  
    オブザーバー               0名  
  
    放送事業者出席者  
                                    1名
4. 議題  
    番組審議・ご要望について
5. 議事の概要  
    (1) 開会宣言  
        放送事業者からの開会宣言  
  
    (2) 局からの現状報告  
        (災害時の対応について、開局4周年記念企画について)

・災害時の対応について

事務局「今期も雨期に突入している。FMみはらにおいても対応マニュアルに加え連絡網なども改定した。その内容について。避難所が開設される警戒レベル3以上で通常放送から臨時放送に切り替える。通常の生放送の時間帯においては避難情報を差し込む形で情報発信をする。緊急時の連絡網は『局長－危機管理課－三原パーソナリティ－後藤社長－三原商工会議所黒田氏』と結んでいる。緊急時対応するパーソナリティは4人。臨時放送を行う順番は決めている。3時間おきに交代。夜10時以降の対応は局長。その時は音声変換ソフトを活用して放送する。番組審議会でアイデアが出た、災害情報ネットワーク。今期は更に活用していきたい。昨年から情報伝達媒体としてラインを活用している。」

A 氏「災害情報ネットワークの25名で良いか？」

事務局「25名です。」

B 氏「災害情報ネットワークと三原市危機管理課はつながっていないのか？」

事務局「直接は繋がっていない。媒体がラインのため。FMみはらを介して情報共有している。」

B 氏「デジタル化を進めることで情報が一元的に集まり、市民も見ることができ、危機管理課が動くようなシステムがあればいい。」

A 氏「NHKのA.I.アナウンサーは非常に流暢に話す。」

事務局「FMみはらはFM和歌山のシステムを使っている。他局でも音声変換ソフトを

活用し始めている。15,000円ほどでも精度の高いシステムが出来ている。」  
C 氏「自分たちの職場でも YouTube 用に音声変換ソフトを活用している。若干の修正は必要だが使える。」

・開局 4 周年記念企画について

事務局「5月6日に三原駅前スペース キオラスクエア内のサテラスで生放送を行った。新型コロナ感染拡大前には毎週金曜日にサテラスから放送を行っていたが現在は中止している。このようなイベントはリスナーにパーソナリティを見てもらう機会になる。そのため時間の都合がつくパーソナリティには全員出演してもらった。また、会場では記念のステッカーも配布。外に少しだけ椅子を並べた。メール総数は 120 件を超え、手ごたえがあったが観客が少なかった。次回はしっかり観客を集めたい。ゴールデンウィーク期間中ではあったが、多くの企業において平日だったため来られない人が多かった。次回は休日に開催し、イベントなどと組み合わせて開催したい。また、日中、サテラスで放送すると窓越しであっても反射して中が見にくい。できれば窓を開けて見やすくし、観客との距離を縮めて開催したい。」

D 氏「サテラスでの他の開催イベントの集客状況はどうか。」

事務局「集客については企画内容による。イベントによっては集客できている。」

B 氏「サテラスの窓を開けることは放送上、雑音が入って難しいのか？」

事務局「状況によると思われる。ただ、公開放送というスタンスでやる場合、観客の声が入っても問題はないと考えている。」

B 氏「生演奏など、コンサートのことはできないか。集客につながるのではないか。もしくは祭りなどのイベントに合わせて公開放送をすることにより FM みはらの宣伝になるのではないか。」

事務局「イベントとのタイアップは効果的と考えられる。次は考えていきたい。」

A 氏「(開局特番を) ラジオで聴いていると、なぜ休みの日に開催しなかったのかというリスナーの声を聴いた。」

事務局「メールを送ってくださる方は、市外の方も多し。その方たちには、休日の開催の方が良かったと思う。」

B 氏「放送ではこの建物特有の音は拾わないのか」

事務局「多少の音はあるが、放送上、問題はない。」

## 6. 審議内容

### 第一号議案「番組審議について」

番組名「『コネクリカフェ 5 月 20 日放送分について』」

事務局「(事務局より番組紹介) 毎週金曜日 19 時から 20 時の 1 時間番組。市民中心の番組。FM みはらでは他の曜日においても 19 時台は、市民番組が多い 19 時台の番組は 18 時台から続けて聞いてくれるリスナーがいるのでメールが集まりやすい。」

A 氏「複数人の掛け合いが良かった。ペン習字というテーマも聞きやすかった。」

D 氏「番組の構成、内容、企画は誰が作っているのか。」

事務局「進行表も含め、全て出演者が作っている。」

A 氏「番組の雰囲気は独特だと感じた。」

事務局「基本的に全体の雰囲気は雑談の延長を狙っている。」

[様式 18]

B 氏「反響はあるのか。」

事務局「メールは 10 通から 15 通。レギュラーのリスナーもついている。」

B 氏「毎回、番組の企画を考えるのは難しいのではないか。」

事務局「大変な作業。ただ、出演者再度でしっかり考えてくれている。」

D 氏「少し聞いただけでは雰囲気はわからなかったが、寂しいときなどに聞くといいと思う。」

事務局「今後も市民参加、市民企画、出演の番組を増やしていきたい。パーソナリティと一般の方を組み合わせた番組もやりたい。」

第二号議案「要望について」

B 氏「安定した運営のためスポンサー獲得の活動は大切。ゲスト出演などをきっかけにラジオに興味を持ってもらいスポンサーになってもらうというのは営業として良いと思う。また、YouTube との連動により音声だけの世界から映像の世界に拡大してはどうか。うまく活用することにより広告収入の可能性も出てくる。」

事務局「会社を経営している人にとって毎週ラジオに出ることは難しい。ただ、月一回であれば調整はできる。ラジオ番組をやってみたいという人のハードルを下げることも大切だと思う。」

A 氏「子供の番組はどうか。青年部のメンバーが子どもたちへのお仕事体験を企画している。ラジオ局においても子供たちに放送体験などを実施してみてもどうか？ラジオに興味を持つ良いきっかけになるのではないか。」

事務局「良い機会になると思う。検討をしていきたい。」

以上